

## 登壇者への質問の回答

群馬県子ども・若者支援協議会

令和6年12月19日に開催された標記研修会で【登壇者】に寄せられた質問に対する回答は下記のとおりです。なお、質問内容は事務局で要約させていただきました。

### 【回答者】

- ・群馬県総合教育センター子ども教育相談係 補佐 西田麻規さん
- ・不登校経験者 豊田和明さん（わせがく高校教諭）
- ・不登校の子どもの母親 岡部知香さん（フリースクールあおば指導員）
- ・不登校親の会：Soothing Space 親の会、フリースクールあおば 代表 関口真由さん
- ・NPO法人 カウンセリング&コミュニケーションミュー（CCM）代表 山本泉さん
- ・NPO法人 ぐんま若者応援ネット「アリスの広場」 代表 佐藤真人さん
- ・みどりクリニック院長 鈴木基司さん

### 1 安全・安心な居場所について

#### ①【佐藤さんへの質問】

- ・不登校生の居場所を確保するために、タッチ登校や保健室登校、別室登校をしている生徒がたくさんいますが、現状維持を保つことが大切ですか、教室復帰を目標にした方がいいのでしょうか。（中学校教諭）
- ・アリスの広場での無償活動、佐藤さんの「原動力」は何ですか。（支援員）
- ・土日しか出られませんが、ボランティア支援は可能ですか。（無記名）

#### 【佐藤さんの回答】

##### ■ 目標は現状維持か、教室復帰か

まず基本的に目標というか、今後どうするかは生徒自身が考え、決める事です。周りが勝手に目標を設定する事は反発を招いたり、不信感を持たれる要因になります。さらっと情報提供はして、本人が興味を持ち自らそうした話をしてきたら具体的な話をしていく、という方が良いと思っています。

ただ、アリスの広場と違い、学校現場だけだと時間の制約があるのでなかなか難しいところはあると思います。

アリスの広場にも、保健室登校や別室登校をしている生徒がいます。彼らは進学を考えていたり、出席日数を気にして、心身ともに大変な負担を負いながら何とか通っています。私たちはそこまで無理をしてまで学校に行く必要はない、進学するにしても方法はいくらでもありと繰り返し伝えていきます。

学校ではそうした生徒には細心の注意を払ってプレッシャーを出来る限り低減してほしいと切に願います。

##### ■ 無償での活動、「原動力」は何か

巣立っていった若者が学校や仕事が休みの時に久々に遊びに来て、最近の様子を話してくれたりする事です。寄付をしてくれる子もいます。また最近になり、元アリスの広場利用者として講演会で話してくれる若者が出てきたこともあります。親御さん含め、こうして来て色々話してくれることがとても励みになっています。

## ■ 土日しか出られないがボランティア支援は可能か

もちろん可能です。実際にそうしたボランティアさんもいます。もちろん無条件ではなく、面談の上で決めています。今回の講演会の参加者は基本的に教員の方や生徒の支援をしている方がほとんどという事なので、アリスの広場でのボランティアに興味を持たれた方はぜひ連絡をもらえればと思います。

### ②【関口さんへの質問】

・フリースクールでの「待つ」「子どもの信じ方を親と一緒に考える」という取組を学校で行う場合、どのようなアプローチが考えられますか。(高校教諭)

#### 【関口さんの回答】

学校と「あおば」の違う大きな部分は、「皆で同じ事をする」学校に対して、あおばは「皆で同じ事をしなくても良い」です。そのため、「待つ」というのは、大人が子どもに対して何かをさせるのではなく、彼らに合わせる事を意味します。子どものペースを読み取り、子どもが希望している事を理解する事が大切で、それが出来るには、信頼関係を築く事がまず必要になります。「大人のペースにはめようとする」という考えではない。大人には、話をしてくれたり、会ってくれたりしやすいです。

「子どもの信じ方」というのは、当事者の保護者にはとても難しい事です。それが難しい事を学校が保護者に伝え、安心させてあげる事が必要な事です。

### ③【山本さんへの質問】

・明和町で開設した居場所「メイプル」とCCM活動は関連がありますか。(中学校教諭)

#### 【山本さんの回答】

CCMでは、「メイプル」さんとの関係や連携はありません。CCMは、県の子どもの生活・学習支援事業の委託事業を受けています。東邑楽地区の児童及び生徒さんの居場所「すわん・カレッジ」を行っています。

## 2 支援のアプローチについて

### ①【豊田さんへの質問】

・中学時代の不登校、こんな支援があったら登校できたかもという思いがありますか。(支援員)  
・生徒に話す将来の大人像として、豊田さんが「教員になろう」と思ったきっかけや刺激を受けた具体的な教師像があったら教えてください。(高校教諭)

#### 【豊田さんの回答】

・中学校時代でのこんな支援があったらということに関して2つあります。

1つ目は別室で登校する際にただ学習のみだけでなく、趣味のことなど先生と話ができる機会があれば楽しいと思い、登校回数が増えていたかもしれないです。

2つ目は相談手段などについて電話連絡だけでなく、メールなどのやり取りができるものがあればいいなと思いました。電話では話しやすい先生に連絡をしようと思った際に学校に連絡するため、絶対にその先生が電話に出るとは限らず、不安がありました。メールとかであれば学校側でも許可が必要かと思われそうですが、1対1でのやり取りが相談しやすいと当時は思っていました。

・教員になろうと思ったきっかけは当時1年次の担任をしていた先生からいろいろと雑談をしていただき、相談にもものってくれました。また学習についても丁寧にわかりやすく教えていただきたくさんの支援をしていただきました。辛いことがあっても「無理せずに自身のペースでいいよ！」と気持ちも理解してくれました。それがきっかけで刺激となり、私も当時お世話になった担任の先生のようになりたいと考え、その先生に恩返しができたらと思い、教員になろうと決意しました。

## ②【豊田さん、岡部さんへの質問】

・学校の支援で「嬉しかったこと」「迷惑・困ったこと」があったら教えてください。(中学校教諭)

### 【豊田さんの回答】

・中学と高校でまとめると『嬉しかったこと』について1つ目は通常教室に入りづらかったため、別室を設けていただき、放課後登校など時間を調整してくれたことです。また、1時間だけで下校するや他の生徒に会わないようになど私の要望にも答えていただけました。

2つ目は登校することや学習などにおいて基本あたりまえとされていることが当時私にはできませんでしたが、挑戦したことや出来たことに対して先生方にほめていただいたことが非常に嬉しかったです。

・『迷惑・困ったこと』については不登校時に家庭訪問が複数回ありました。その中で担任や学年主任、校長まで来ていただいたことがありました。その中で何度か私も含めて面談をしたいということがあり、当時は誰にも会いたくない気持ちが強く、一人にしてほしい時期もありました。

この影響で逆に不安やプレッシャーを強く感じたことがありました。そのため、家庭訪問に来ていただいたことは振り返るとありがたいことではありますが、強制的に私も一緒に面談をするというのは当時迷惑だなと感じていました。

### 【岡部さんの回答】

担任の先生は、とにかく寄り添ってくださいました。息子の高校はSC以外にも教育専門アドバイザーの方もいて、息子の考えの傾向など、いろいろと考えてくださいました。一方で合わないなと思ったのは養護教諭です。医師でもないのに「うつかな？」と軽々しく口にし、口調も強く、弱っていた時期だったので辛かったです。

## ③【岡部さんへの質問】

・息子さんの不登校で担任やSCが寄り添ってくれた時、どんな言葉かけに安心できましたか。具体的な働きかけを教えてください。(特別支援学校教諭、支援員)

### 【岡部さんの回答】

「言葉かけに安心」というより、とにかく否定をせず傾聴してあげて欲しいです。当事者はアドバイスを求めるより、不安な気持ちを聞いて欲しいからです。

④【岡部さんへの質問】

・子どもを「信じて待っている」、トラブル発生時の解決にどのように役立つと考えていますか。

【岡部さんの回答】

「信じて待っている」待つということが一番簡単ですが、一番辛いです。長いトンネルを歩いて、いつ光が射すのか…。ただ、子どもにとって「待っているよ」と支援者から声をかけられるのは、安心に繋がるように思います。

⑤【岡部さん、関口さん、山本さん、佐藤さんへの質問】

・当事者への支援で、支援者任せになっている親に対してどんな働きかけをすれば良いでしょうか。  
(中学校教諭)

【岡部さんの回答】

支援者任せになっている親…。すごく心が疲弊しているのではないのでしょうか。スモールステップで、次のステップを提示してあげると、本人や保護者の心のモヤモヤが晴れてくると思います。支援者側の引き出しをたくさん作ることも良い方法だと思います。

【関口さんの回答】

支援者任せの背景がよく分からないため答えにくいのですが、子どもによっては学校や支援者が支援する方がスムーズにいくので、保護者の方がこちらを頼ってくれているのであれば子どもの支援は任せてもらい、保護者の方には私たちが出来ないこと、おうちのご飯を作るなどをしてもらうのが良いのではないかと思います。その際、子どもを責めたりしないことをお願いしたり、子どもを否定しないこともお願いして欲しいです。

【山本さんの回答】

子どもの支援は、親の協力が必要です。ところが、支援者任せになっている親の背景には、

- 1 自分が子どもにどの様に接して良いのか分からない。
- 2 親自身にこころの余裕がない、疲弊している、などの場合があります。

そのような時、親が、支援者に対して相談したい、頼りたいと思える信頼関係の構築を目指します。具体的には、親の現状や心情を無条件に肯定的に受け止め、共感的理解を伝えていきます。

親の変容が認められるようになったら、親ができることを伝えていきます。例えば、生活の中で子どもの好ましい言動(当たり前と思っている行動)への肯定的なフィードバックです。支援者は、親から聴いた子どもへの対応を肯定的に受け止めていきます。親は支援者から認められると、その後の子どもとのかかわりに自信がもてるようになり、子どもを認められるようになります。

変容した親の影響は、子どもの変容にもつながり、親子関係が肯定的に転換し出します。ここでの注意点は、親に過度な責任を押し付ける、子どもや家族のペースを考慮しないで事を急がせてしまうことなどです。実は、どちらも支援者側の焦りによるところがあります。せっかく築いた信頼関係も崩れかねません。ここまでは、次の目標である子どもの問題や課題に取りかかるために必要なプロセスです。

**【佐藤さんの回答】**

中学校の先生という事で苦勞されていると思います。親御さんの状況にもよりますが、ここでは仮に親御さんが自身の考え方や子どもへの接し方を見つめなおすといった事に思いが至らない、視野が狭く、自分が正しいという思いが強い場合、残念ながらそうした親の意識を変えることは大変難しいと思います。それよりも悩んでいる生徒への支援と生徒の視野を広げる事に労力を注いだ方が遥かに意味があると思います。どのように生きていくかを決めるのは親ではなく、本人なのです。

**⑥ 【鈴木さんへの質問】**

- ・発達特性があって学校での人間関係のトラブルが多い。医療受診や障害者手帳取得を勧めるが親が受け入れないまま卒業する生徒がいます。卒業後に医療機関を含め、適切な支援につながるようするにはどうすれば良いでしょうか。（無記名）
- ・周囲から「やる気がないだけ」と言われる中3不登校、部活だけ頑張っていたが今は目標もないまま休んでいる。登校刺激を続けるが変化なし、どのように関わったら良いでしょうか。（中学校教諭）

**【鈴木さんの回答】**

何らかの工夫で「当事者」（本人、ご家族、学校スタッフ）以外の存在を繋げたい所ですが、当事者としては「余分なお世話」と思う事もあります。そうになっている要因はさまざまですが、そこをほぐすためにも「関係を創る」工夫となりますが既に試みたと推察します。可能ならば心配を具体的に話す人とご家族に話された事への不満や不信をきく人を意識的に保障しておきたいものと考えます。（役割を意識した連携態勢作り）

- ・セロトリン処方でうつ状態が改善しよく話すようになり、将来の夢も語るようになりました。今後どのように支援を継続したらよいでしょうか。（支援員）

**【鈴木さんの回答】**

セロトニン：できれば少量から薬剤を用いたいものと考えますが、その時に同時に話してくれた事を聴ける人を保障しておきたい。話しながら「このくらいならできそう、やっても良い」「他の子からみられないなら」等、キッカケを作る人とそのキッカケへの不安をさらに聴ける人との連携を意識したい。

- ・セロトニンの多少は人によって違うのですか、どうすれば増やすことができるのですか。服薬以外の方法を教えてください。（行政職員）

**【鈴木さんの回答】**

セロトニンの多少：生来的に個体差がありそうですが結論的には言えません。差はありとは言えますが、陽に当たる、軽い運動をするなどで少しは増えるとされています。

・学校でのトラブルが原因で不安を抱えて不登校が続く小2生。受け止め役の親と役割分担して登校を促すために手紙を送っているが変化なし。担任としてどのように本人にアプローチしたら良いでしょうか。(小学校教諭)

**【鈴木さんの回答】**

キッカケ作りとしての先生からの手紙とのことですがご家族とはどのように連携していますでしょうか。手紙の渡し方やどのような形式か、具体的に工夫なさっていますでしょうか。

例えば、母からの「登校刺激」と本人が捉えていないか？渡し方まで含めて上述の「役割を意識した連携」になっていますでしょうか。具体的にお伺いしたいところです。

### 3 支援の連携について

①【関口さんへの質問】

・フリースクールに通いゲームを楽しんでいる生徒。小学校の学習が定着せず家事手伝いのみ、将来に対する両親の考え方に相違があります。「信じて待つ」中学校では何もしてあげられずに見守り、見送るという方針でよろしいのでしょうか。(中学校教諭)

**【関口さんの回答】**

家でできるのに、フリースクールに通っているのはなぜか…。子どもの気持ちを考えることができます。それも「信じて待つ」です。学習の遅れがあり、ご両親が不安なのももちろんで、ご両親の不安を取り除くのであれば、どのような高校があるのかを学校から考えてあげることで、先が見えるのではないかと思います。フリースクールが学校と連携しているということだけでも、ホッとすると保護者・当事者はいます。何もしてあげないのが「信じて待つ」ではないと思います。

②【鈴木さんへの質問】

・不登校支援に関わる親、学校、カウンセラー、医療機関の役割分担について、鈴木先生の持論を教えてください。

**【鈴木さんの回答】**

その子が育つ＝適応する力と自分の気持ち(不安を言葉で発信する力)の両面を意識して対応しています。二つの目標が共に関連して育つと考えています。

## 4 その他

### ①【西田さんへの質問】

・本校生徒が「つなサポ」を利用し、現在は少しずつ学校に足が向くようになっていきます。学校としてアカウントを利用できないか職員で話題になりました。学校以外の居場所という意義を考えると学校が過剰に関わることは難しいかと思いますが、学校がどのように関わっていけばいいか、非常に難しく感じました。「預けっぱなし」の状況に危機感を感じています。(中学校教諭)

#### 【西田さんの回答】

子どもたちの心理的負担軽減の観点から、現時点では、アカウントの配付を制限しておりますことをご理解いただきますようお願いいたします。なお、個別の相談がある場合は、お知らせください。

また、学校との連携についてですが、毎月末に出席状況を、月の上旬には活動と学習の記録を送付し、電話や訪問、zoomを用いたオンライン会議による報告や支援方針の確認を行っております。今後も、学校をはじめ、保護者や関係機関との情報共有を密に行い、より良い連携の在り方を検討してまいります。

・SSWとして不登校生徒や保護者に関わっています。発達特性や緘黙、対人恐怖的心因症状を持つ生徒にとって「つなサポ」は有用と感じます。積極的に案内したいのですが来年度の予定はどうなっていますか (SSW)

#### 【西田さんの回答】

当該の子どもたちへの案内をありがとうございます。

次年度は、“30日以上学校に通学できていない”という原則にのっとり5月からの受付を予定しています。詳細の周知については、今後検討していきます。

・高校入試で出席日数を記載する際、利用者は出席扱いでいいのか ( ) 書きになるのですか。(中学校教諭)

#### 【西田さんの回答】

「つなサポ」の出欠の扱いについては、各学校長の判断になります。

・タブレット端末機でも利用は可能ですか。(中学校教諭)

#### 【西田さんの回答】

サポート対象のOSは、スマートフォンやタブレット端末機には対応していません。

また、Surface、Chromebook またはLinux ベースのPCと互換性がありません。機器を含め、「つなサポ」に関するご相談は、県総合教育センター子ども教育相談係にお問い合わせください。

### ②【豊田さんへの質問】

・不登校生の中には通信制へ行っても将来は終わっているという子もいます。傷ついている子は「自分なんてどうせ…」という気持ちが強いようです。豊田さんが不登校で通信制入学を決意してから、つらかったり苦しかったりしたことはありませんか。どのように乗り越えていきましたか。(高校教諭)

【豊田さんの回答】

・通信制高校へ入学後、当時は学校へのブランクもあったため、登校や学習など将来のことでたくさん不安が募り、5月連休明けに約2ヶ月間登校しなくなったことがありました。ですが、休んでいる間に担任の先生から連絡をいただいてクラスメイトからもメールをくれたりなどいろいろと心配をしてくれました。

また、担任の先生から登校するための方法を提案してくれましたが、私は「絶対できるわけない」と思っていました。ですが、両親からは「一度もやっていないのになんで出来ないって思うの？まずはやってみなよ！」と後押ししてくれました。特に父からは私の好きなゲームに例えて教えてくれました。「まずは敵と一度戦って見ないと！倒せなかったら何度もコンティニューしたらいいじゃない？何度かやっていくと徐々に慣れて弱点が分かって、自身の武器を変えるとかいろいろと改善するでしょ！敵に勝つと経験値がもらえて自身のレベルも上がって前へ進めるでしょ！日常生活もゲームのような感じだと思うよ。」この言葉を機に私も挑戦して乗り越えてみようと思いました。

・通信制高校でも途中で続かなくなる生徒がいると思います。どんなサポートを受けられますか、卒業後の進路はどのように決まっていますか。(中学校教諭)

【豊田さんの回答】

・通信制高校のサポートについて私が所属しているわせがく高校(太田キャンパス)では生徒の状況に合わせて対応をしています。例えば登校の面ではコースによって登校の仕方が異なります。特に不安などがあればフレックス制という生徒の状況に合わせていつ登校してもよいスタイルがあります。また、それ以外にも個別対応として別室や放課後登校などご家庭や生徒本人にも確認をして行っています。また、生活面では生徒の話に合わせて雑談をするなど教員と生徒間の距離が近いことも1つのサポートだと考えています。特に私は普段の声掛けや面談等において欠かさず雑談をしています。特にゲームの話や音楽(アーティスト)のはなしなど生徒の好きなことを引き出しています。

これを機に信頼関係を築いています。また、各担任はついていますが、担任以外の教職員はすべて副担任として話しやすい先生に相談したりなどもできます。学習面についてはいきなり高校分野からではなく数学や英語などは中学の総復習から進めていきます。また、生徒によっては小学校範囲でも躓いてしまうこともあるため、個人に合わせてプリントや参考書を用いて放課後に教えたりなどを行っています。

・卒業後の進路についてはご家庭と生徒本人との三者面談を通じて本人の要望に合わせて進めていきます。ですが、進路決定をするだけでなく、卒業後に5年・10年と継続していけるかということも見据えて一緒に考えていきます。また、進路意識として1年次から行事の一つで『進路ガイダンス』を実施しています。上級学校や企業の方にお越しいただき、説明会や体験なども行っています。さらに上級学校や企業に直接伺い、見学をすることもあります。しかし、生徒によっては社会に出ることに不安を募る生徒もいるため、進学・就職だけでなく、アルバイトから始める生徒や就労移行支援を活用する生徒、自宅療養、浪人など生徒の現状に合わせています。進路を進めていく間に学校や企業の情報を提案したり、オープンキャンパス・職場見学に参加させるなど生徒が直接実感できるようにしています。

その後は志望理由書や履歴書の作成方法や添削、面接練習などその先方に合わせて行っています。さらに3年次や進路担当の教員だけでなく、教職員全員が一丸となって対応をしています。仮に進路が決まらなかった場合、まずは高卒の資格を取り、卒業後でも進路支援は行っているため、卒業生でも相談に来て、添削・練習などの対応もしています。ていく間に学校や企業の情報を提案したり、オープンキャンパス・職場見学に参加させるなど生徒が直接実感できるようにしています。

・現在に至るまで、周りのサポートや本人の努力があったかと思います。豊田さんを強く支えたのはどんなことですか。自己実現に向かうエネルギーは何だったのですか。(支援員)

**【豊田さんの回答】**

・強く支えたことは両親が言ってくれた『挑戦すること・諦めずに経験すること』です。この言葉などたくさん言ってくれたことで自身に響き、最初は『試しにやってみよう』というところから始め、現在も挑戦と経験を行っています。

また、両親に関しては普段の会話から相談まで現在も話をしているため、両親の支えは本当に大きいと感じています。自己実現に向かうエネルギーは私の好きなこと(趣味)ができることだと思っています。現在も緊張や不安を抱えてしまうことがありますが、そんな時に趣味を通じて元気をもらって頑張っていこうと考えています。現在もこれを実行しています。

**③【岡部さん、関口さんへの質問】**

・校内の相談室を利用する生徒が複数います。アットホームな環境で自習・自学をしています。多くはおしゃべりをして過ごしています。フリースクールあおばのルールはありますか、男女の距離感が近い時にはどのようにしていますか。交際に感謝している様子の保護者への対応はどうしたらいいですか。(中学校教諭)

**【岡部さんの回答】**

どんな学校の仕方でも良いと思います。おしゃべり出来る、すごいパワーがいることですので、否定しないであげて欲しいです。あおばもルールはあります。全て自由ではありません。ただ強制もさせないので、さじ加減はとても難しいです。男女の距離感が近い時は必ずスタッフが近くにいるようにしています。

**【関口さんの回答】**

ほとんどの子どもが学習しませんが、一応午前中は学習する子がいるかもしれないので「静かに遊ばしましょう」としています。ただ、じっとしていられない子など、発達の特性の強い子もいますし、少しの声か雑音となって同じ部屋にいられない子もいるので部屋は二つないと難しいと思います。男女の距離が近い場合、好意がありそうだと感じたら、スタッフはうまく仲を保てるように近くで介入しています。